

「授業力」向上は 素直さから



愛知教育大学教授
佐藤 洋一 氏

教育随想

私は、国語科授業研究論・評価論を専門にしているが、愛知教育大学に着任以来十八年間、岡崎市の優れた先生方や教育実践に触れる機会があった。

近年では、竜美丘小学校・河合中学校・北野小学校等の新しい提案を含む国語科研究にかかわらせていただいた。

また、「さわらびの会」・国語科主任研修会、附属岡崎小中学校・井田小学校・南中学校、教育研究大会の助言や講演等の機会を継続的に与えていただき、「現場に役立つ研究者」になれるように鍛えていただいていたと感謝している。

二十一世紀の義務教育の役割の明確化や教員の資質・能力等をめぐっては様々な議論や提案がある。競争原理の導入や学校選択制・学校の民営化等も語られている。



平成18年2月1日

2月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
愛知教育大学教授 佐藤 洋一氏	
この人に聞く	2
「額田炭焼きの会」会長 高木田 洋氏	
羅針盤	2
福岡中学校長	千賀 敏之
ふれあい	3
愛宕小	藤田 陽子
南中	小坂 芳正
特集	4
進む救急医療 ～大切な「いのち」を救う～	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
岩山に立つ掲揚塔完成 (昭和51年)	
この本を	8



しかし、義務教育（公教育）は時代は変わっても国家の根幹であり、未来を創る子供たちに「確かな学力を保証」とともに、生涯にわたる人間性・社会性と、自己学習能力の基礎・基本を育てる重要な九年間である。

教師とは、子供たちの「魂」にかかわる素晴らしい仕事であるという誇りと責任を持ち、そのために必要な資質や能力、特に今日的な意味の「授業力」授業技術・評価能力」を向上させる研修が必要である。

「授業力を高めるには、要するに何が必要ですか？」と聞かれる時に

は、素直さ・聞く力と答えることにしている。自分の実力と正面から向き合うのは辛い、謙虚に（素直に）聞く耳を持つこと、自分を変える意欲と決意を持つこと、これなくして授業力の基礎は身につかない。

聞く力とは相手に対する思いやりであり人間的な想像力、そして子供や自分と向き合い、正しく読み解き判断する力の基礎だからである。

授業や学級等の指導技術は、教師の人間性のありかたと日々の行動に支えられてこそ生きたものになる。

(さとう よういち)



草の根国際貢献

「額田炭焼きの会」会長
高木田 洋氏

「子供たちの喜ぶ顔が忘れられなくて……。スリランカの人たちの生活向上に役立つことがうれしいです。」
そう笑顔で語るのは、「額田炭焼きの会」会長の高木田さん。高木田さんは、NPOである「自立のための道具の会」の会員でもある。

郵便局を退職した後、額田の自然を守り育てようと炭焼きを始め、活動していたところ、友人の勧めで、「自立のための道具の会」の活動にも参加することになる。同会は、必要になった大工道具などを再生させ、必要とする国へ送っているボラ

ンティア団体。さらに、現地に赴いて、生活改善のための技術指導も行う。高木田さんはその一員として、これまで六年間にわたって十三回スリランカを訪れ、ヤシ殻炭を使った浄水器作りの指導にあたってきた。

「初めは生活燃料としての炭焼き作りを教えに行きました。ところが、衛生状態が悪いのに驚きました。川の水や雨水を集めたものを飲んでいたので、腹の病気になる子供たちも多いのです。そこで、ヤシ殻炭を使った浄水器作りを思い立ちました。」

現地では、竹は発電の燃料として貴重品らしい。そこで、高木田さんは、ヤシ殻を使うことを思いついた。

「ヤシも生活に欠かせないものですが、その殻だけは使いようがなく、捨てられていました。これを炭にしようと思ったのです。」
現地には炭を焼く習慣がない。高



木田さんは、まずヤシ殻を使った炭の作り方を教えることから始める。そして、現地で調達したポリ容器に細かく砕いたヤシ殻炭を敷き、砂利や砂を入れて浄水器を作る。

「炭の焼き方や浄水器の作り方を教えると、子供たちが率先してやってくれるのがうれしいですね。」

こうしてできた浄水器を使って透き通った水が飲めることを人々は喜び、純粋に感謝してくれるという。

「もつとお金をかければよいものはできるでしょう。でも、小さなことでですが、自分にできることを丁寧にやっていたいのです。浄水器作りを通して、現地の人たちが衛生面にも気を遣うようになってくれることがうれしいですね。」

こうした高木田さんのボランティア活動は高く評価され、現地の新聞でも大きく取り上げられた。まさに、草の根国際貢献といえよう。

この他に高木田さんは、地域の小学校の非常勤講師や中学校の土曜講座の講師としても活躍し、炭作りを通じた環境教育にも貢献している。

「在職中より忙しい毎日です。でも、人の役に立てるから頑張れます。」

さりげなくそう語る言葉に、高木田さんの豊かな人生観が感じられた。

生年月日 昭和十六年五月二十一日
住 所 保久町宝ヶ上二十五

過程を大切に

福岡中学校長 千賀 敏之

各学校は、教育目標をもとに具体的な努力目標を掲げ、教育実践をしている。この実践の成果・状況を、保護者、生徒、職員からの診断・評価などにより実態を把握し、よりよいものとするように力を尽くしている。

このような前向きな取組が、有効に機能するためには、日々の実践の過程で目標に掲げたことが互いに意識され、具体的に生かされていくことが大切である。私は、実践の過程を大切にす構えとして、次のようなことに留意したいと思う。

一 共通理解に努める

職員が互いに協力していくためには、納得のいく共通の基盤が必要である。そのためには、互いに話し合いの機会を多く持つことが必要である。その場合、違う面を強調するのではなく、どこで共通の目標に向かって行動できるかということを重点としたい。



学芸会で得たもの

愛宕小 藤田 陽子

「今日の練習は中止します。みんな、教室に戻って。」

練習時間になっていないのに、ふざけていて全くやる気をもせないA男。他の子もおしゃべりに夢中だった。

「先生に言われてやるのではなく、自分たちで創り上げる学芸会にしてほしい」と話した。そして、子供たちと相談して必要な係を決めた。A男は、照明・放送の責任者となり、次の練習から準備や片付けを進んで行った。また、全体を見渡せる係をしていることから、劇をよりよいものにするための意見を積極的に出してくれた。しかし、慣れからか、校内学芸会は、せりふを淡々と言うだけの劇になってしまった。

「もっと、思いを込めてせりふを言うんじゃないかったの」というわたし



の一言に、A男を中心に子供たちはどう直したらよいか話し合った。

いよいよ学芸会。朝の練習からいつもと違った。「歌の声が大きすぎて耳が痛いよ」とうれしそうに言うA男。子供たちの奮起で、学芸会は迫力ある演技を披露することができ、どの子も満足感に満ちあふれた笑顔を見せた。「先生は、自分たちでやり遂げた達成感を味わわせてたくて、しかってくれたのだと分かりました」とのA男の作文が心にしみた。



南中劇を通して

南 中 小坂 芳正

A子は小学校から不登校気味で、別室登校をしていた。夏休みに「どるかぶら」の観劇会があり、子役としての出演依頼に、学年会で相談した。その中で、以前から演劇に興味を持ってA子に話してみると、少し考えながらも「出てもいいよ」という



返事が返ってきた。実際の劇では、全校生徒が見つめる中、緊張しながらも大役を立派に果たすことができた。それを契機に、徐々にではあるが学級に入れるようになってきた。

二期期になり、文化祭恒例の南中劇の役者募集が行われた。「わたし、役者に応募してみようかな」とA子は自分から言ってきた。「この前は上手にやれたよね。南中劇も大丈夫」と励ましながらも、その行動力の変化に驚かされた。

それからは一緒になってせりふや演技の練習をした。恥ずかしそうな表情や小さな声も、次第に自信に満ちたものとなり、本番直前には「わたし、上手になったでしょう」と言えるほどになった。役者仲間とも笑顔で会話することも増えて、本番では堂々と役を演じることができた。これを力として、別室登校がうそのように、自分の学級に入り、明るい表情で過ごすことができていく。

このことは、保護者との関係においても同様である。情報を提供するだけでなく、交換をすることが連携には必要であると感じている。

さらに、各職員の実践が、その学校の全職員から理解され、協力が得られるような温かな雰囲気づくりが大切であると思う。

二 いろいろな角度から見ると

真剣に考えても、見えない部分がある。できるだけいろいろな角度から情報を得ておくことが、よりよい判断につながる。

熱意は大切だが、教師側の理念が先行し、生徒や保護者の気持ちや受け取り方を考えないと、うまくいかない。説得するよりも、納得してもらうことが大切である。日ごろの生徒の活動の中でのよい面を取り上げ、大きく育てるようにしたい。

三 誠意を持って取り組む

何事にも誠意を持って取り組む教師は、生徒や保護者から信頼されることを実感している。

難しいと思われることも、できないと言っているのではなく、何が、どのような条件でできるのかを考えたい。前述したことは、そのようにありたいと思いつつも、実際にはできていないことが多く、自戒の日々である。しかし、少しでも近づけていきたいと思っている。

進む救急医療



～大切な「いのち」を救う～

現在、岡崎市には救命救急士が四十三名在籍しており、緊急時に備えている。救命救急士は、さらに高い段階の救急処置ができるよう研修を重ね、この四月には、気管挿管や薬剤投与ができる救命救急士が二名誕生する予定である。また、岡崎市民病院では、医師と看護師が乗車したドクターカーも来年度から導入されることが決定し、準備が進んでいる。

市内の全小中学校にも、今年度末までにAED（自動体外式除細動器）が設置されることになった。緊急時により適切な応急処置をし、救命につながるためである。

AEDとは、コンピュータによって傷病者の心臓のリズムを自動的に調べ、除細動が必要かどうかを自動的に決定すると共に、どういう操作をすべきかを音声メッセージで指示する機器である。

これは、これまでの心肺蘇生法（人工呼吸と心臓マッサージ）を補助し、特に心室細動（心臓がけいれんしている状態）の傷病者には効果が高い。簡単な講習を受ければだれでも安全に操作でき、救急隊が到着するまで、迅速で正しい応急処置をするのに役立つ。

わたしたちも、事故が起きないよう着衣泳や避難訓練などを実施し、未然管理に努めると共に、適切な応急処置の研修や訓練を積み、素早い対応ができるように備えておきたい。

学校における

未然管理



▲ レスキュー隊による避難訓練（羽根小）



▲ 着衣泳の実習（上地小）

AEDを用いた心肺蘇生法の流れ

▶ 心臓疾患に効果があるAED（自動体外式除細動器）8歳未満の者には使用できない。



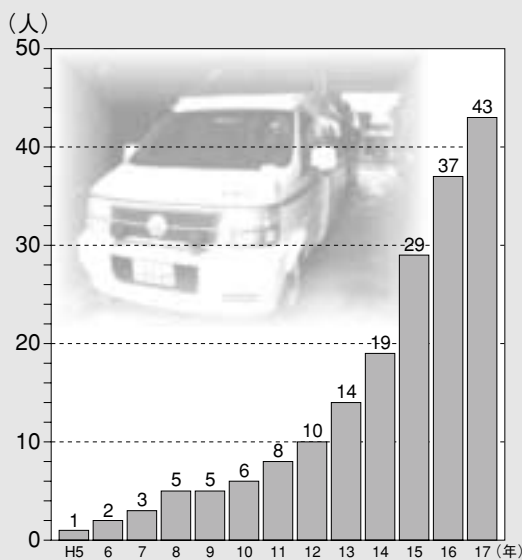
▲ AEDが到着するまで人工呼吸と心臓マッサージを行う。

▶ 必要があれば、救急隊が到着するまで心肺蘇生法とAEDを併用して行う。



▲ 音声に従い電極パッドを貼る。周囲に水気等がないか確認し、電気ショックのボタンを押す。

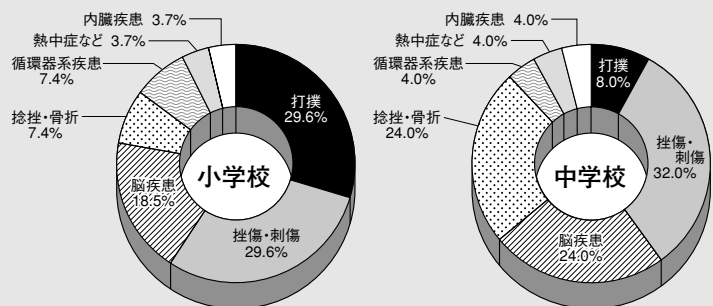
整備される救急体制



▲ 岡崎市の救命救急士数の推移



▲ 救命設備の整った救急車内部



▲ 小中学校への救急車出動原因内訳 (2005年)

お知らせ

● 教育最新情報

○ 教育マイスターの活用

今、社会では、学力低下や公共心の欠如など教育に関する様々な問題が指摘されている。こうした中で各学校においては、積極的に教育の改革に取り組んでいただいている。教育改革の基本は、教育に携わる者の一人一人の意識改革であり、学校・家庭・地域が密接な連携のもとで取り組まなければならない。しかし、学力低下問題を一つ例にとっても、社会の見方や考え方は三者三様で、明確な自分の考えや手だてを持ちにくい現状にある。

こうした状況を打破するには、優れた実践や体験、技能等を有する方の生き方や考え方に学ぶことが有効であると考える。



▲ 子供への読み方指導 (藤川小)

そこで、岡崎市教育研究所では、全市的な視野で、岡崎の教育活動に貢献していただける人材を各学校からの推薦により募集し、教育人材バンク「教育マイスター」として市内全体の集約(マイスター一覧)をし、各学校に示した。(教育ネットWEBページにも掲載)

教育マイスターは、現在の次の分野別に総計一三三名の方が登録されている。

- ・ 広い視野で教育を展望できる人材

- ・ 芸術・文化面の活動に優れた人材
- ・ 生き方にかかわる体験をもつ人材
- ・ 先進的な経営理念や魅力的な生き方をしている人材
- ・ その他

教育マイスターの人材利用申込については、随時、教育研究所で受け付けている。

これまでに活用された学校の感想を紹介する。

「本の選び方や読み方、立ち位置など、これまで自己流でやってきたので、今回の研修がとても役立ちました。」

(美合小保護者)

「相手のことを思い、きれいな心で読むこと」と言われてはっとしました。」

(藤川小四年女子)



▲ 保護者への読み方指導 (美合小)

● ハートピアだより

二期期のハートピアは、一日二十五人の子が来所したときがある。部屋の中は子供で一杯になるほど、とじこもりがちの子供が勇気を出して来所できるようになってきた。

二期期中に九名の子が見事学校に復帰をすることができた。これも、家庭・校長、担任、不登校担当並びに、関係者の温かいご支援があったからだと感謝の気持ちで一杯である。

九月に始まった二期期も、普段の活動をはじめ、ブドウ狩り、陶芸教室などの所外活動も含め有意義に過ごすことができた。

十二月二十日(火)に、二期期の生活を振り返り、二期期の生活につなげていく二期期まとめの会を行った。

内容は一緒に食事をしながら話をするということで、男子はおにぎりや豚汁作り、女子はケーキ作りと会場の装飾にあたった。

おにぎり作りの男子は慣れない手つきで、お手伝いに来

ていた母親の作り方を見ながら、好評のシーチキンを具にして、一生懸命に三角にしていた。外では、煙で目を細めながら薪の係やうちわの係等決めて、豚汁を作っていた。

ケーキ作りの女子は、生クリームを塗り、果物を載せていった。イチゴ一つの位置にもそれぞれの意見があるのか、ふだん話をしない子供たちが、いろいろと話をする姿があらこちらに見られた。

初めのうちは、「どうするの」「次は何やるの」などいちいち聞いていた子供たちも、慣れてくると自分たちで工夫することができるようになり、それとともに次第に明るい笑い声が所内に響いてきた。

このことが三期期を経て、学校復帰につながる大きな力になることを信じている。



▲ 年越会の様子

表彰

◆第四十九回全国学芸科学コンクール

●旺文社赤尾好夫記念賞(銀賞)
詩部門 東海中三年 鈴木尚子
●旺文社赤尾好夫記念賞(入選)
作文部門 東海中三年 瀨瀬安美

●努力賞

読書感想文部門
東海中三年 田中美帆

◆ソニー子ども科学教育プログラム

優秀校 夏山小学校
常磐南小学校

◆第二十三回作品コンクール

文部科学大臣奨励賞
「アマガエルの色変わりと
ジャンプ力に関する研究」
竜美丘小五年 稲葉えいり

◆愛知県伝カリーニバル

●男子

優勝 東海中学校 三位 六ツ美中学校A
四位 竜南中学校 五位 北中学校A
六位 南中学校A 七位 葵中学校
八位 竜海中学校A

※男子 区間新記録賞

東海中三年 水野眞治(第四区)

●女子

優勝 南中学校A 二位 六ツ美中学校
四位 竜南中学校 五位 北中学校A
六位 竜海中学校A 七位 福岡中学校
八位 美川中学校A

◆第四回全国子ども科学映像祭

佳作 東海中三年 小坂有・田嶋優太郎
佳作 生平小五年 橋本大輝

◆第十五回ひたちパソコン画伯コンテスト
優秀賞(全国二位)
東海中三年 高橋正和

◆東海中学生ソフトテニス

インドア大会(男子の部)
第三位 河合中 太田・長屋

◆愛知県読書感想文コンクール

●愛知県知事賞
大門小一年 戸矢 早織
東海中三年 植田 美咲

●愛知県教育委員会賞

小豆坂小四年 種村 雪
●愛知県図書館協会賞
東海中三年 高嶋 志帆

●優良賞

山中小一年 浜谷 圭太
岡崎小二年 梅村 享祐
六ツ美南部小二年 小林 茉夕
竜美丘小三年 長嶋 遥奈
井田小三年 小林 佑地
三島小四年 松井 優佳
本宿小五年 小栗 奈穂

矢作東小五年 阿部 英明
矢作北小六年 稲垣 周
連尺小六年 金城 和己
六ツ美中一年 川越 友貴

美川中二年 羽田野可奈

◆第六回ユーリシヨートムービーパーク

CM部門賞(全国一位)
「生徒手帳」(三十秒のCM)
東海中三年 原田権也

◆クリスマスデジタルアートグランプリ 2005
入選(全国二位)
「サンタクロース二号」
東海中三年 加藤拓磨

◆第十七回とよたビデオコンテスト

ジュニア部門 優秀賞(全国一位)
「竜海中学校平和維持組織パトランジュニア部門」
東海中三年 パソコン部

◆中学生人権作文コンテスト

全国人権擁護委員連合会長賞
常磐中学校

◆第三十九回県教育論文

佳作(個人の部)
「ことばを大切に、心豊かに生き生きと生活する子どもの育成」
本宿小 小田 幸子

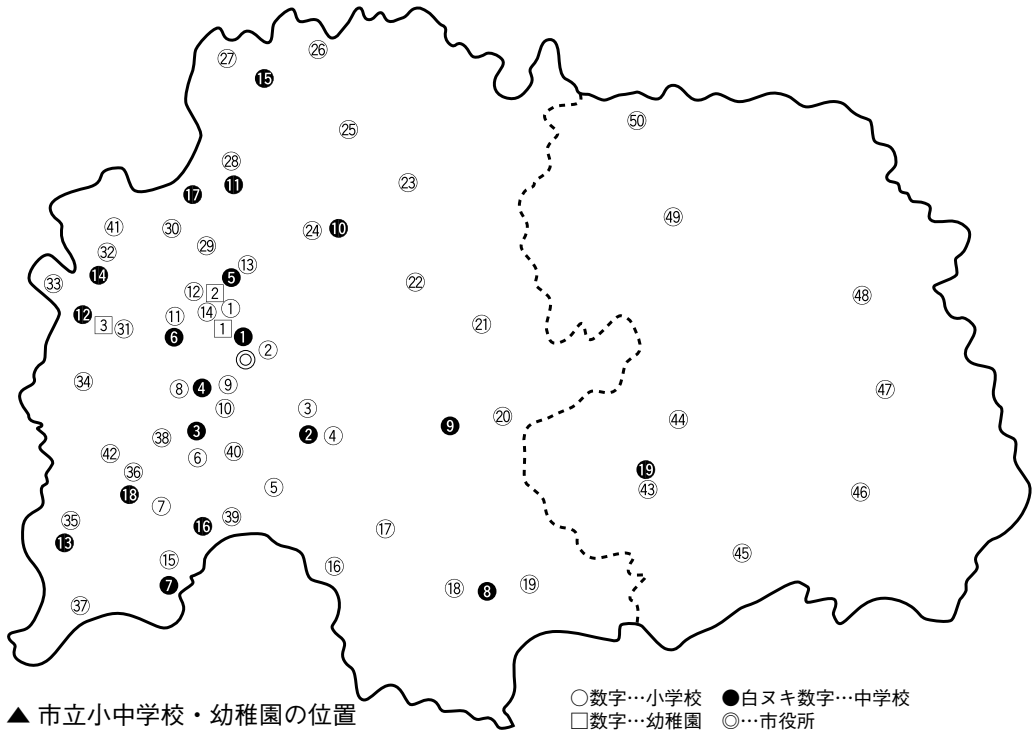
「主体的に学び、見通しを持って活動する児童の育成」
北中 浅野 博志

「人や自然とかかわり合いながら学びを進展させる児童の育成」
豊富小学校 鈴木紀予子

「個に応じた能力で持久走を楽しむ授業」
葵 中 志村 光弘

「ひとつぐりを目指すものづくり指導」
岩津中 山田 義仁

- ① 梅園小
- ② 根石小
- ③ 男川小
- ④ 美合小
- ⑤ 緑丘小
- ⑥ 羽根小
- ⑦ 岡崎小
- ⑧ 六名小
- ⑨ 三島小
- ⑩ 竜美丘小
- ⑪ 連尺小
- ⑫ 広幡小
- ⑬ 井田小
- ⑭ 愛宕小
- ⑮ 福岡小
- ⑯ 竜谷小
- ⑰ 藤川小
- ⑱ 山中小
- ⑲ 本宿小
- ⑳ 生平小
- ㉑ 秦梨小
- ㉒ 常磐南小
- ㉓ 常磐東小
- ㉔ 常磐小
- ㉕ 恵田小
- ㉖ 奥殿小
- ㉗ 細川小
- ㉘ 岩津小
- ㉙ 大樹寺小
- ㉚ 大門小
- ㉛ 矢作東小
- ㉜ 矢作北小
- ㉝ 矢作西小
- ㉞ 矢作南小
- ㉟ 六ツ美中部小
- ㊱ 六ツ美北部小
- ㊲ 六ツ美南部小
- ㊳ 城南小
- ㊴ 上地小
- ㊵ 小豆坂小
- ㊶ 北野小
- ㊷ 六ツ美西部小
- ㊸ 豊富小
- ㊹ 夏山小
- ㊺ 鳥川小
- ㊻ 大雨河小
- ㊼ 宮崎小
- ㊽ 千万町小
- ㊾ 形埜小
- ㊿ 下山小
- ① 梅園幼稚園
- ② 広幡幼稚園
- ③ 矢作幼稚園



・カ
ツ
ト
六ツ美北部小 米村 進

岩山に立つ掲揚塔完成

(昭和51年)

写真提供：常磐小学校

最近、特色ある学校づくりが盛んに言われ、地域の特性を生かした学校建設や運営が行われるようになってきている。
昭和五十一年、常磐小学校では新校舎建築に伴い、多くの花崗岩が掘り出された。この岩を生かした学校づくりが行われ、運動場北側の通称「岩山」の中腹に、巨石を組み上げて掲揚塔が築かれた。完成当時は、掲揚塔の周りには樹木が全く無く、常磐小学校にふさわしい緑の環境を整えようと、PTAと学区の方々の協力で懸命に植樹に取り組んだ。
それから十年、全日本緑化コンクール学校環境の部で特選をいただくまでになった。現在、塔は花崗岩と緑に囲まれて、多くの児童の成長を見守っている。



この本を

- *頭をよくするちょっとした習慣術 和田 秀樹 ￥514 祥伝社
- *問題な日本語 北原 保雄 ￥840 大修館書店
- *コギト2「若者たちは今」 浅井 勉 ￥1300 歴人社
- *こまつた人 養老 孟司 ￥700 中央公論社

*こんな夜更けにバナナかよ 渡辺 一史 ￥1800 北海道新聞社
進行性筋ジストロフィーという難病を患い、重度身体障害者となった鹿野靖明さん。寝たきりで24時間他人の介助無しでは生きていけない鹿野さんと彼を支えるボランティアたちの交流を描いたノンフィクション。「普通に生きたい」という切実で正当な欲求を行使するために、我がまを連発する鹿野さんとそれを受け止めようとするボランティアたちの葛藤。「なぜボランティアをするのか」や「本音で語り合うことの大切さ」を改めて考えさせられる1冊である。

岡崎学力検査が行われるようになって久しい。子供たちにとっては、自分の学力を客観的に知るよい機会であり、教師にとっては、自らの指導の成果を反省する大切な機会でもある。結果をきちんと分析し、問題点を検討することで、子供たちの学力の向上に役立てていきたい。

シオ スア

自分の年の数だけ豆を食べる節分。最近では恵方巻と称して、節分に太巻きを食べる風習が定着しつつある。その年の恵方（今年には南南東）を向き、黙って太巻きをほおばるこの風習。バレンタインデーと同様、商業的な意味合いが大きいのが、厄落としの意味を持つそう。

「アメリカからこの牧草は運ばれてきたんだよ。去年のハリケーンの影響で餌の値段が上がって、困っているんだよ」牧場見学に行った子供たちに、おじさんからこんな言葉をかけられた。かわいい子牛だけを見ていた目は、その瞬間に世界へと広がっていった。

素早さと適切な処置が、救命の鍵となる。一か月に約千件も出勤している救急車。緊急場面に出遭い、救急隊の到着を待つ間、わたしたちは、迅速で適切な応急処置を続けられるだろうか。アメリカでは小学生が扱うほど、AEDの操作は易しい。ぜひ役立てていきたい。